

【公衆衛生学】細菌性食中毒に関する次の記述のうち正しいのはどれか。

1. 乳児ボツリヌス症は、1歳未満で多くみられ、ハチミツに含まれるボツリヌス菌の芽胞の摂取が主要な原因と考えられている。
2. セレウス菌による食中毒は、食品中に産生されたエンテロトキシンの摂取により発症し、体内で菌が増殖して産生される毒素によって発症することはない。
3. 腸管出血性大腸菌による食中毒は、加熱不十分な鶏肉などの摂取による場合が多く、ギラン・バレー症候群を発症することがある。
4. カンピロバクター・ジェジュニによる食中毒は、加熱不十分な牛肉などの摂取による場合が多く、重症例では溶血性尿毒症症候群を発症する。
5. 黄色ブドウ球菌による食中毒には、食品中に産生された毒素の摂取による嘔吐型と、摂取された菌が腸管内で増殖し、毒素を産生して起こる下痢型がある。

【臨床化学】分子マーカーと疾患の組合せとして正しいものが次の a～e のうちには二つあるが、それらはどれか。

- a. 脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) —— 肝硬変
- b. デオキシピリジノリン —— 原発性副甲状腺機能亢進症
- c. プロカルシトニン —— 敗血症
- d. KL-6 —— 心不全
- e. ヒアルロン酸 —— 肺線維症

- 1. a, b
- 2. a, e
- 3. b, c
- 4. c, d
- 5. d, e